

- 問1 東南アジアのチャオプラヤ川流域などの平野部では、豊かな水資源と高温な気候を背景に、効率的な農業が行われています。この地域で多く見られる「二期作」の説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 山形県公立入試 類似)

1. 一年を通して気温が高いため、同じ耕地で一年に二回、米などの同じ作物を栽培すること

2. 土地の肥沃さを保つために、同じ土地で年ごとに育てる作物の種類を順番に変えること

3. ビニールハウスなどの施設を利用し、作物の成長を早めて出荷時期をずらすこと

4. 夏に米を育て、冬には小麦などの異なる作物を同じ耕地で栽培すること
- 問2 アマゾン川流域などの熱帯地域で伝統的に行われてきた焼畑農業において、数年ごとに耕作地を移動させる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 数年間の栽培によって土地の養分が低下し、収穫量が減少するため

2. 大型の農業機械を効率よく動かすために、常に新しい平坦な土地が必要なため

3. コーヒーや天然ゴムなど、輸出を目的とした商品作物を大規模に栽培するため

4. 雨季の激しい降雨によって農地が水没し、同じ場所での栽培が物理的に不可能になるため
- 問3 ケープタウン（南アフリカ）、テヘラン（イラン）、ホーチミン（ベトナム）、ウェリントン（ニュージーランド）、オタワ（カナダ）の5つの都市のうち、四季の変化がはっきりした「温帯」に共通して属している都市の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2018年 千葉県公立入試 類似)

1. ケープタウンとウェリントン

2. ケープタウンとホーチミン

3. テヘランとオタワ

4. ホーチミンとウェリントン
- 問4 東南アジアなどの熱帯地域において、森林を伐採してプランテーションを拡大する動きが地球環境に与える影響について、その背景と仕組みを説明したものとして最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 北海道公立入試 類似)

1. 光合成を行う樹木が失われることで、二酸化炭素の吸収量が減少し、地球温暖化を進行させる要因となる。

2. 大規模な灌漑設備により地下水位が上昇することで、土壌の塩類集積が起こり、周辺の耕作地を不毛化させる。

3. 森林の保水力が失われることで、年間を通じて降水量が極端に少ない乾燥帯へと気候が変化し、砂漠化を進行させる。

4. 農園で使用される化学物質が大気中に放出されることで、オゾン層を破壊し、地表に届く有害な紫外線を増加させる。
- 問5 とうもろこしの主要生産国のうち、北半球に位置するアメリカ合衆国や中国では、主に九月から十一月にかけて収穫が行われます。これに対し、南半球に位置するアルゼンチンやブラジルにおける一般的な収穫時期の説明として、適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)

1. 赤道に近いため季節の変化がなく、北半球と同じ九月から十一月に収穫が行われる。

2. 日照時間が最も長くなる現地の夏にあたる十二月から一月にすべての収穫を終える。

3. 北半球とは季節が逆転するため、主に三月から五月ごろに収穫が行われる。

4. 降水量の少ない時期を避けるため、現地の冬にあたる七月から八月に収穫が集中する。
- 問6 中国とインドの人口構成を比較した際、中国では1990年頃から65歳以上の人口割合がインドを上回るペースで上昇し続けています。中国において、このような人口構成の変化がインドよりも顕著に、かつ急速に進んでいる背景として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)

1. インドに比べて乳児死亡率が非常に高く、次の世代を担う年少人口の割合が極端に低いため

2. 経済発展に伴って若年層が国外へ大量に流出し、国内の高齢者の比率が相対的に高まったため

3. 一人っ子政策による出生率の抑制と、医療の発展による平均寿命の伸びが同時に進んだため

4. 広大な国土を管理するために、都市部から農村部への大規模な人口移動が強制的に行われたため
- 問7 1990年から2018年にかけて、日本やアメリカの二酸化炭素排出総量が増加しているにもかかわらず、世界全体に占める両国の排出割合が減少した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)

1. 日本とアメリカが全ての化石燃料の使用を廃止し、再生可能エネルギーへの完全な転換を達成したため。

2. 欧州諸国における二酸化炭素の排出量が、日本やアメリカの増加分を補うほど劇的に減少したため。

3. 中国やインドといった新興国の経済発展が目覚ましく、それらの国々の排出量の伸びが日本やアメリカを大きく上回ったため。

4. 世界全体の人口が減少したことでエネルギー消費が抑制され、日本やアメリカの排出割合だけが特異的に低下したため。
- 問8 近年、日本の飲食店や食品メーカーにおいて、イスラム教の教えに従った食品であることを示すマークを商品やメニューに表示する動きが広がっています。このような取り組みが行われる背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 山梨県公立入試 類似)

1. 仏教の影響を強く受けた日本において、肉や魚を使わない伝統的な食文化を海外に普及させるため

2. 特定の地域で生産された農産物について、その品質が国際的な基準を満たしていることを保証するため

3. 一定の期間、飲食を断つ修行を行う人々のために、栄養価の高い特別な食材であることを証明するため

4. グローバル化に伴いイスラム圏からの観光客や移住者が増え、宗教上の習慣に配慮した食事の提供が必要になったため
- 問9 カナダ北部などの北極圏に近い高緯度地域では、地球の地軸の傾きが原因で、季節による日照時間の差が非常に大きくなります。このような地域で見られる、夏に太陽が一日中沈まない現象の名称と、伝統的な犬ぞりに代わって普及した現代の移動手段の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)

1. 白夜とスノーモービル

2. 白夜と四輪駆動車

3. スコールとスノーモービル

4. 極夜と犬ぞり
- 問10 北アメリカ北部の高緯度地域において、年平均気温が約10度と低く、冬の気温が氷点下まで下がるという気候条件が生じる主な理由と、人々の生活への影響の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

1. 標高が極めて高い山岳地帯であるため空気が薄く、酸素ボンベを携帯して移動することが一般的である。

2. 大陸の西側に位置し、寒流の影響で夏に気温が上がらないため、一年中厚手の毛皮を着て生活している。

3. 高緯度で太陽の光を受ける角度が低いため冬の寒さが厳しくなり、住宅には高度な断熱材や暖房設備が必要となる。

4. 赤道に近く上昇気流が発生しやすいため年間を通じて雨が多くなり、高床式の住居が普及している。
- 問11 日本の長野県や群馬県の高原地帯では、夏の涼しい気候を利用してレタスやキャベツなどの野菜を栽培し、平地の出荷時期をずらして出荷する「高冷地農業」が盛んです。この「標高が高くなるほど平均気温が低くなる」という自然の性質を何と呼びますか。 (2017年 秋田県公立入試 類似)

1. 季節風の変動

2. フェーン現象

3. 気温の遞減率

4. ヒートアイランド現象
- 問12 中央アジアなどの乾燥した草原地帯で見られる、定住せずに水や牧草を求めて季節ごとに移動しながら、羊や馬などの家畜を飼育する牧畜の形態を何といいますか。 (2015年 岡山県公立入試 類似)

1. 遊牧

2. 放牧

3. 移牧

4. 酪農

答え合わせ・解説

問1	答え 1 一年を通して気温が高いため、同じ耕地で一年に二回、米などの同じ作物を栽培すること	二期作は、同じ作物を二回栽培できるだけの温暖な気候が条件となります。選択肢にある「異なる作物を栽培すること」は二毛作、「出荷時期をずらすこと」は促成栽培、「作物の種類を順番に変えること」は輪作（クロップ・ローテーション）の説明であり、それぞれの定義を正しく理解しておくことが重要です。
問2	答え 1 数年間の栽培によって土地の養分が低下し、収穫量が減少するため	焼畑農業で得られる灰の肥料成分は、熱帯特有の激しい雨によって流されやすく、短期間で土地がやせてしまいます。そのため、土地の地力を回復させる休耕期間を設ける必要があり、農民は数年ごとに別の森林や草原を切り拓いて移動します。これに対し、大規模な資本を投じて輸出用作物を育てるのはプランテーション農業、機械化による大規模生産は企業的穀物農業の特徴です。
問3	答え 1 ケープタウンとウェリントン	温帯に属するケープタウンとウェリントンは、それぞれアフリカ大陸南端とニュージーランドに位置し、ともに人間が住みやすい気候条件を備えています。一方、ホーチミンは低緯度に位置し一年中気温が高い熱帯、テヘランは降水量が少ない乾燥帯、オタワは冬の寒さが厳しい冷帯（亜寒帯）に属しており、温帯の組み合わせには該当しません。
問4	答え 1 光合成を行う樹木が失われることで、二酸化炭素の吸収量が減少し、地球温暖化を進行させる要因となる。	熱帯雨林は大量の二酸化炭素を吸収し、炭素を蓄える役割を果たしているため、その減少は地球温暖化の加速に直結します。開発に伴う森林の焼却（火入れ）によっても大量の二酸化炭素が放出されるほか、生態系の破壊による生物多様性の喪失も大きな問題となっています。他の選択肢にある塩害や砂漠化、オゾン層の破壊は、主に乾燥帯での過剰な灌漑やフロンガスの排出などが原因であり、熱帯雨林減少の直接的な仕組みとは異なります。
問5	答え 3 北半球とは季節が逆転するため、主に三月から五月ごろに収穫が行われる。	地球の公転と地軸の傾きにより、北半球と南半球では季節が反対になります。農作物の収穫時期は気候や季節に強く影響されるため、北半球の主要生産国が秋を迎えて収穫する時期、南半球の国々は春にあたります。したがって、南半球のアルゼンチンやブラジルでは、北半球が春から初夏に向かう時期（現地での秋）に収穫の最盛期を迎えることになります。
問6	答え 3 一人っ子政策による出生率の抑制と、医療の発展による平均寿命の伸びが同時に進んだため	中国では1979年から2015年まで人口抑制のために「一人っ子政策」が実施されました。これにより子供の数が減り、一方で経済発展と医療の普及によって平均寿命が延びたことで、総人口に占める老年人口の割合がインドよりも早いスピードで上昇しました。これは将来的な労働力不足（生産年齢人口の減少）などの社会問題に直結しています。
問7	答え 3 中国やインドといった新興国の経済発展が目覚ましく、それらの国々の排出量の伸びが日本やアメリカを大きく上回ったため。	世界全体の二酸化炭素排出の構造は、1990年以降大きく変化しました。日本やアメリカも排出量を増やしてはいますが、それ以上に「世界の工場」として急速な成長を遂げた中国や、人口増加と工業化が進むインドなどの排出増加ペースが極めて速かったことが要因です。その結果、分母となる世界全体の排出量が膨らみ、相対的に日本やアメリカの「割合」は減少するという統計的特徴が生まれました。
問8	答え 4 グローバル化に伴いイスラム圏からの観光客や移住者が増え、宗教上の習慣に配慮した食事の提供が必要になったため	世界には多様な宗教や文化を持つ人々が生活しており、イスラム教徒にとっては教義に基づいた食事（ハラール）の確保が不可欠です。日本を訪れるムスリムの増加や多文化共生社会への対応として、レストランなどがハラール認証を受けることで、誰もが安心して食事ができる環境づくりが進められています。
問9	答え 1 白夜とスノーモービル	北緯66.6度以北の北極圏などの高緯度地域では、夏季に太陽が地平線の下に沈まない「白夜」という現象が起こります。これは地球が地軸を約23.4度傾けた状態で公転しているために生じます。また、こうした寒冷な地域での移動手段は、かつては犬ぞりが主流でしたが、現在は動力を持つ「スノーモービル」が広く普及し、生活の利便性が向上しています。
問10	答え 3 高緯度で太陽の光を受ける角度が低いため冬の寒さが厳しくなり、住宅には高度な断熱材や暖房設備が必要となる。	高緯度地域では、低緯度地域に比べて太陽光が斜めに差し込むため、単位面積あたりに受けるエネルギーが少なくなります。これにより冬の気温がマイナス10度近くまで下がる過酷な環境となるため、カナダなどの地域では室内を効率よく暖めるセントラルヒーティングや、熱を逃がさないための住宅構造が発達しています。
問11	答え 3 気温の逓減率	地表から上空に向かって高度が上がるにつれて、気温が一定の割合で低下していくことを気温の逓減率と言います。この地理的な性質があるため、標高の高い地域は同緯度の平地よりも冷涼な気候となり、高原野菜の栽培などに適した環境が作られます。フェーン現象は山を越えた風が乾燥して高温になる現象であり、混同しないようにしましょう。
問12	答え 1 遊牧	乾燥帯の中でも降水量が極めて少ない地域では、一箇所に留まると家畜の餌となる牧草がすぐに尽きてしまいます。そのため、水場や新しい草地を求めて広範囲を移動する生活様式が発達しました。似た用語に「放牧」がありますが、これは家畜を野外で飼育すること全般を指し、必ずしも居住地ごとの移動を伴うわけではありません。